

軟式野球競技実施要項



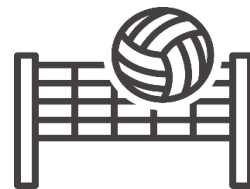
1. 試合方法
 - (1) トーナメント方式とする。
 - (2) 試合は7回終了とするが、1時間40分を超えて次のイニングには進まない。
 - (3) コールドゲームは4回以降7点差とし、雨天および日没時は4回以降で試合成立とする。
 - (4) ボークについては、警告はないものとする。
 - (5) 規定回数および試合時間で勝敗が決しない場合は、特別ルールとしてタイブレークを採用する。(無死満塁で終了時より継続で行う。特別延長は1回。それでも勝敗がつかない場合は抽選(じゃんけん)で勝敗を決定する。)
(方式:前イニングの終了時からの継続とし、無死満塁で実施する。)
 - (6) その他は、当該年度全日本軟式野球連盟制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 全試合の審判は競技責任者が別途委嘱する。
3. 参加規程
 - (1) 参加登録は18名までとし、事前にチーム毎に選手登録を行うこと。
 - (2) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合、そのチームの出場を停止する。学生証コピー未提出の選手は出場不可。
 - (3) 選手は、スパイク、ユニフォームを着用した者に限る。
 - (4) ユニフォームは、全日本軟式野球連盟規則に準ずる。
また、同一チームは同じユニフォームを着用すること。(揃わない場合は事前申告)
 - (5) 打者および走者はヘルメット、捕手はマスク、プロテクター、レガースを必ず着用する。
 - (6) 試合開始時刻を5分経過してメンバーが揃わないチームは、棄権とみなす。
 - (7) ベンチは、組合せ時の番号が小さいチームを1塁側とする。
 - (8) その他は、監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) 全日本野球連盟公認球「ナガセケンコーボールM号」を使用。大会本部で用意する。
但し、練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) 前試合の3回終了時に競技本部にて、チーム主将及び監督(引率の先生)立ち会いのもと先攻・後攻の決定を行う。その際、オーダー表を3部持参すること。
 - (2) 主審および塁審の判定に従うこと。
 - (3) 出場選手の交代は必ず主審に告げること。
 - (4) 試合終了後、両チームで協力をしてグラウンド整備を行うこと。
ボールボーイは両チームで協力して行う。
 - (5) 天候の都合などでルール、組み合わせ及び日程、開始時間、中止を含め一部変更する場合がある。
 - (6) 大会中は禁煙とする。
 - (7) ベンチおよび応援席のゴミ等は各チームで責任を持って持ち帰ること。
備え付けのゴミ箱(自販機)の使用も不可。
 - (8) 参加規程に違反または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止する。
 - (9) けが等治療のための救急箱は各チームで用意し各チームにて責任を持つこと、
参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (10) 駐車場内でのキャッチボールなどは禁止する。
 - (11) 盗難に十分注意すること。
 - (12) トイレにはトイレットペーパーは常備していないため、各自持参すること。

フットサル競技実施要項



1. 試合方法
 - (1) 抽選会にて組み合わせを決定する。欠席された学校については体育委員に一任する。
 - (2) 試合時間は7分ハーフでタイムアウト無しのランニングタイムで行う。(ハーフタイムは2分間)
 - (3) 試合はリーグ戦方式を原則とするが、参加校数によってはこの限りではない。
 - (4) リーグ戦は勝ち点方式を採用する。(勝ち＝3 引き分け＝1 負け＝0)
勝ち点で並んだ場合は得失点、総得点、当該チーム同士の勝敗の順番で判断する。
いずれも並んだ場合は代表者によるじゃんけんにて勝敗を決する。
 - (5) 試合中に退場処分を受けた者は、その試合と次の試合の出場を停止する。
 - (6) 当大会中、警告を2回受けた者は次の1試合に出場できない。
 - (7) 原則として(公財)日本サッカー協会「フットサル競技規則」に準拠する。
ただし、相手へのスライディング行為は禁止とする。
2. 審判
 - (1) 審判は審判員が行い、判定・グラウンドルールは審判に一任される。
判定は男女平等に行うものとする。
3. 参加規程
 - (1) 選手の登録は1人1チームとし、複数のチームへの登録は認めない。
 - (2) チーム編成については男子学生のみ、女子学生のみ、男女混合いずれも良いものとする。
 - (3) 当大会への登録選手及び各試合の登録選手は1チーム最大12名までとする。
 - (4) 試合中の交代は無制限とし、交代でベンチへ退いた選手は交代要員となり再びピッチに戻る事が可能。
 - (5) アウトオブプレー、インプレーに関わらず交代可能。ただし、選手が交代ゾーンのラインより外に出るまで、交代者はピッチに入ることはできない。
 - (6) ゴールキーパーは交代者の誰とでも交代可能。
 - (7) 登録選手確認のために学生証の提示を求めるので、試合当日は学校ごとに学生証のコピーを準備しておくこと。
 - (8) 虚偽登録などの違反行為が発覚した場合、当該チームは0-3の不戦敗とする。
 - (9) 試合開始時間は大会日程の試合時間を厳守し、試合開始時間までにメンバーが3人以上集まらないときは棄権とみなし、対戦相手の不戦勝とする。(3-0)
 - (10) ユニフォームはチーム内同一が望ましいが、ビブスでも可。ただし、パンツ・ソックスはチーム内で同色を着用すること。ゴールキーパーは必ず別色とする。
 - (11) シューズはフットサル用もしくはトレーニングシューズとし、すね当ての着用を義務付ける。
4. 試合球
 - (1) 試合球は「モルテン社製」とし、福専各にて準備する。
5. 注意事項
 - (1) 腕時計やネックレス・ブレスレット・ピアス等のアクセサリ類の着用は禁止する。
また、メガネはスポーツ専用のもの以外は着用しないこと。
 - (2) 学生は審判や競技委員の指示に従い、速やかに行動すること。
 - (3) 学生らしく振る舞うこと。特に応援の学生が来ている学校については選手だけでなく、応援の学生についても責任をもって対処すること。
 - (4) 会場内では禁煙とし、ゴミは各自で持ち帰ること。
 - (5) 不参加等の予定変更時は前日までに事務局と対戦校に連絡すること。
 - (6) **引率教員は、選手および応援学生の行動に対し責任を持ち、適切な学生指導を徹底すること。**
 - (7) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、各チームにて責任を持つこと。参加チームは事前に傷害保険に加入しておくこと。
 - (8) ベンチ内ではユニフォームを脱ぐかビブスを着用すること。(ビブスは各チームにて用意すること)
 - (9) **審判の判定に対する不適切な発言(暴言、誹謗中傷等)を禁止する。**
これは選手、監督、および観客も対象とし、違反した場合は退場や会場からの退出を命じることがある。
 - (10) **審判の判定への抗議を目的として、コート内へ立ち入ることを固く禁ずる。**

バレーボール競技実施要項



1. 試合方法
 - (1) トーナメント方式とする。
 - (2) 試合は1・2セット目が25点、3セット目が15点のラリーポイント制の3セットマッチ(2セット先取)とする。
 - (3) ネットの高さは、男子2.43m、女子2.24mとする。
 - (4) その他は、当該年度日本バレーボール協会(JVA)制定の6人制競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 審判(主審・副審)は、競技委員長が別途委嘱する。
 - (2) ラインズマン等の補助員は、競技委員長の指定したチームで行う。
なお、補助員はラインズマン4名、得点係2名、記録員2名とする。
 - (3) 試合終了後、記録員は速やかに結果を大会本部へ報告すること。
3. 参加規程
 - (1) チーム編成は、部長・監督・コーチ・マネージャー・トレーナー各1名と、選手14名(14名となる場合はその中にリベロ2名を必ず含む)の計19名以内とする。
これ以外の人は、ベンチ及びコートに試合中は入ることができない。
監督・コーチ・マネージャーは、左胸部に既定のマークを付けること。
 - (2) 出場選手は、選手登録した者であること。それ以外の者を起用(ベンチ入りを含む)したり、二重登録をしたチームは失格とする。
 - (3) 選手は、統一されたユニフォームまたは運動服を着用し、胸と背にゼッケン(20cm×20cm)を付けること。ゼッケンは上段に学校名(略称可)を、下段に番号(数字の幅は2cm以上の太字)を明記すること。
 - (4) 主将は、胸の番号の下にキャプテンマークを付けること。
 - (5) リベロプレーヤーは、濃淡のはっきりと分かるユニフォーム又はビブスを着用すること。
 - (6) 選手は、競技用シューズまたは体育館シューズを履くこと。
 - (7) 試合開始予定時刻を経過しても選手が揃わない場合は棄権とみなす。
 - (8) 試合中、選手のピアス等のアクセサリー類着用は禁止する。
 - (9) その他は、監督者会議申し合わせ事項による。
4. 試合球 molten社製JVA検定球5号を使用し、大会本部で用意する。
5. 注意事項
 - (1) 大会期間中の選手の喫煙は禁止とする。
 - (2) ラインアップシートは、試合開始前に大会本部へ提出すること。
 - (3) 審判員の判定には素直に従い、フェアプレーを心掛けること。
 - (4) ベンチおよび応援席のゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (5) 貴重品の管理は、各自・各チームで責任をもって管理すること。
 - (6) カメラマンによる撮影は試合に支障をきたさない限りで可能だが、試合中のカメラのフラッシュは禁止とする。
 - (7) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。

バスケットボール競技実施要項



1. 試合方法
 - (1) 男女共にトーナメント方式とする。(参加チームの数によってはリーグ戦も検討)
 - (2) 4クォーター制とし、各10分、インターバル2分、ハーフタイム10分とする。
 - (3) その他は当該年度、日本バスケットボール協会(JBA)制定の競技規則に準ずる。
 - (4) コートは、新しいラインのコートを使用し、競技ルールも新ルールとする。
2. 審判
 - (1) 審判は競技委員長が別途委嘱する。
 - (2) 試合当日、第1試合のオフィシャル・得点係・フロアー係は、第3試合の両チームより各4名ずつ出すこと。試合時間になってもオフィシャルが集まらない場合はチームを失格とする場合もある。2試合目以降は、前試合の敗者チームよりオフィシャル4名・得点係2名、フロアー係2名の合計8名を出すこと。ただし敗者チームで8名そろわない場合は勝者チームが協力する。
 - (3) 各日、1試合目のオフィシャルは(2)の通り、第3試合の両チームより各4名ずつ出す。
 - (4) オフィシャルについては試合開始10分前には着席すること。
3. 参加規程
 - (1) 大会当日の試合開始予定時間1時間30分前までに、メンバー表と学生証のコピーを本部席に提出すること。また、怪我防止のため爪のチェックを行います。
 - (2) 大会当日の試合開始予定時間30分前までに、メンバー表とオフィシャル及び対戦チームにそれぞれ1部ずつ提出し、選手全員が本部にて選手チェックを受けること。
 - (3) チーム構成は、選手15名の他、監督・コーチ・トレーナー・マネージャー等、計20名以内とし、全員メンバー表に記入すること。メンバー表に書かれていない者はベンチに入ることができない。ただし、監督・コーチについては職員であり、試合時にはどちらかがベンチに入ること。
 - (4) 同じ学校同士であっても試合に出場している選手は、マネージャー等を含め他チームのベンチに入することを禁止する。
 - (5) 出場選手は、そのチームの学校の学生であること。それ以外の者を起用(ベンチ入りを含む)したり、二重登録などの不正出場をしたチームは、出場停止され失格となる。
 - (6) 服装は揃いのユニフォームもしくはビブスの濃淡2着を用意し、背番号は0番から2桁の番号であれば認める。試合当日、いずれかを用意していないチームは失格とする場合もある。
 - (7) ユニフォーム及びビブスが登録学生数の数不足しているチームはユニフォーム及びビブスの人数を登録人数とする。
 - (8) 試合によってユニフォーム及びビブスを変更させる場合は選手登録を必要とするが、大会期間を通して選手登録した同じ番号のユニフォーム及びビブスの着用とする
 - (9) ユニホーム規定の改定に伴い、パンツの長さはひざ上までとする。
 - (10) 新ルールにより、選手の身に付けるものは同一単色もしくは無地とするのが望ましい。ソックスなどの製造メーカーについては、移行期間として現段階で揃える必要はない。
 - (11) ベンチは抽選番号の若いチームがオフィシャルに向かって右側とし、ユニフォームの色は淡色、左側のチームが濃色とする。
 - (12) 出場選手は、学生証を常に携帯し、監督又はキャプテンは出場選手全員の学生証のコピーを持参しておくこと。
4. 試合球
 - (1) 男子は、Molten社製JBA検定球7号天然革、女子は、同社製同検定球6号天然革を使用し、黒マジックでチーム名を明記した試合球を1球用意すること。その他練習球は、各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) 競技期間中は全て禁煙とする。
 - (2) 屋外に出る際は、必ず屋外用の履物に履き替えること。バスケットシューズ等の屋内の履物のまま、屋外に出ることは厳禁とする。
 - (3) ベンチおよび応援席のごみ等は、各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (4) 試合開始予定時刻を5分経過しても選手が揃わないチームは棄権と見なし、不戦敗とする。
 - (5) 審判の判定に従い、質問はキャプテンを通して申し出ること。
 - (6) 観客の応援は自チームベンチ側の応援席からのみとし、ベンチ上や相手チームのベンチ上からの応援を禁止する。
 - (7) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (8) 大会駐車スペースには限りがあるため、参加選手および応援については公共交通機関を利用すること。

卓球競技(団体)実施要項



1. 試合方法
 - (1) 男女共国体方式3名とする。
 - (2) 4シングルと1ダブルスの5マッチ(試合)を行い、3マッチ先取したチームを勝ちとする。
試合順はシングル、シングル、ダブルス、シングル、シングルとする。

試合順	1	2	3	4	5
(ABC)	A	B	BC	A	C
(XYZ)	X	Y	XZ	Y	Z

※A、Yはシングルのみ(例: 一番強い選手を充てることが多い)

※(ABC)(XYZ)はジャンケンで決める
 - (3) 1マッチ(試合)は1ゲーム11点のゲームマッチにより3ゲームを先取したチームを勝ちとする。
 - (4) その他は当該年度の日本卓球協会(JTTA)制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 競技責任者が割り当てする。
3. 参加規程
 - (1) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (2) 選手は、競技用シューズまたは体育館用運動靴を履き、背部にゼッケン(20cm×20cm)を付けたユニホームまたは運動服を着用した者に限る。

※ユニフォームは白上衣着用を禁止。どうしても白を取り入れたい場合、袖のみ可。

※ゼッケンには、上から県名、学校名(略称可)、個人名(姓のみ可)を明記すること。
 - (3) 試合開始時刻は、前試合終了5分後とし、さらに5分経過しても試合会場(コート)に来ない選手は棄権とみなす。
 - (4) その他は監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) Nittakuプラボール(3スター)を使用。大会本部が用意する。
但し練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) ラケットの両面にラバーを張る場合は異色にし、はみ出るラバーは2mm以内とする。
 - (2) 参加規程に違反し、または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (3) 競技中の事故については、主催者側にて応急処置を行うが、その後の処置は各チームにて責任を持つこと。
 - (4) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (5) 競技が終わった学校も最後まで残ること。(団体戦のみ)
 - (6) ベンチおよび応援席のごみ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (7) 大会中は禁煙とする。

卓球競技(個人)実施要項



1. 試合方法
 - (1) 男女共トーナメントとする。
 - (2) 1マッチ(試合)は、1ゲーム11点の5ゲームマッチにより3ゲーム先取した者を勝ちとする。
 - (3) その他は当該年度の日本卓球協会(JTTA)制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 競技責任者が割り当てる。
3. 参加規程
 - (1) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (2) 選手は、競技用シューズまたは体育館用運動靴を履き、背部にゼッケン(20cm×20cm)を付けたユニホームまたは運動服を着用した者に限る。
※ユニフォームは白上衣着用を禁止。どうしても白を取り入れたい場合、袖のみ可。
※ゼッケンには、上から県名、学校名(略称可)、個人名(姓のみ可)を明記すること。
 - (3) 試合開始時刻は、前試合終了5分後とし、さらに5分経過しても試合会場(コート)に来ない選手は棄権とみなす。
 - (4) その他は監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) Nittakuプラボール(3スター)を使用。
大会本部が用意する。但し練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) ラケットの両面にラバーを張る場合は異色にしなければならない。
 - (2) 参加規程に違反し、または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (3) 競技中の事故については、主催者側にて応急処置を行うが、その後の処置は各チームにて責任を持つこと。
 - (4) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (5) ベンチおよび応援席のごみ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (6) 大会中は禁煙とする。

硬式テニス競技(個人)実施要項



1. 試合方法
 - (1) 男子シングルス、トーナメント方式、女子シングルス、総当たり戦方式とする。
 - (2) それぞれ、6ゲーム先取、ノーアドバンテージ方式とする。
(SFより1セットマッチとする。6-6の場合は7ポイントタイブレークを行う。)
 - (3) その他は当該年度日本テニス協会制定の競技規則に準ずる。
2. 審判
 - (1) 基本的に個人戦はセルフジャッジで行う。
 - (2) 試合が終わるごとに結果を競技本部に届けること。
 - (3) 各コートにロービングアンパイアがいるので、何かあったらアンパイアに届け出ること。
3. 参加規程
 - (1) 出場選手は選手登録者であること。登録外者や他競技との二重登録者を起用した場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (2) 選手は競技用シューズを履き、背部にゼッケン(20cm×20cm)をつけたユニフォームまたは運動服を着用した者に限る。
※ゼッケンには、上から県名、学校名(略称可)、個人名(姓のみ可)を明記すること。
※ゼッケンがない選手は出場できない。
 - (3) ラケットは硬式テニス専用のものを各自用意すること。
 - (4) 試合開始時刻は前試合終了5分後とし、さらに5分経過しても試合会場に来ない選手は棄権とみなす。
 - (5) その他は監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) 各メーカーの公認球を使用。
※大会本部が用意する。但し、練習球は各自で用意すること。
5. 注意事項
 - (1) 8:30受付 8:45監督会議とする。(詳細は、監督者会議でスケジュールを伝える)
 - (2) 試合進行上、選手は常にテニスコート周辺にて待機しておくこと。
 - (3) 試合を行う選手以外はテニスコート内の立ち入りを禁止する。
 - (4) 大会運営の都合等でルール、組み合わせおよび日程を、中止を含め一部変更する場合がある。
 - (5) 参加規程に違反、または不都合な行為があった場合は、そのチームの出場を停止し、失格とする。
 - (6) 全試合とも試合終了後はコート整備を行い、ゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (7) 大会中は禁煙とする。
 - (8) けが等の治療のために救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。

ソフトテニス競技(団体)実施要項



1. 試合方法
 - (1) 男女ともリーグ及びトーナメント方式で行う。
 - (2) 決勝トーナメントにおいては2点先取とする。
 - (3) 試合は、3位決定戦を行う。
 - (4) その他、現行の日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブックに準ずる。
2. 審判
 - (1) 相互審判とする。
 - (2) 対戦終了後、勝者チームは対戦結果を競技本部に持ってくること。
3. 参加規程
 - (1) チーム編成は、監督1名、選手6名以上8名以内の選手登録をすること。
登録以外者及び他競技との二重登録者の出場を禁ずる。出場をした場合は、失格とする。
※1 選手が4名以上でも参加することが出来る。但し、3番目を棄権とすること。
※2 選手は審判ができるものとする
 - (2) 選手は日本ソフト連盟既定のユニフォームを着用し、背部にゼッケン(20cm×20cm)を付けること。
 - (3) **ゼッケンには、上から県名、学校名(略称可)、個人名(姓のみ可)を明記すること。**
 - (4) 選手はテニス競技用シューズを履くこと。
 - (5) ラケットはソフトテニス連盟公認のラケットを使用すること。
 - (6) 試合開始予定時刻(前試合終了後10分)を経過してもメンバーが揃わないチームは、棄権とみなす。
 - (7) その他は、監督会議申し合わせ事項による。
4. 試合球
 - (1) JSTA公認球(ケンコーボール)を使用し大会本部が用意する。
5. 注意事項
 - (1) 大会運営の都合等でルール・組合せ・日程中止を含め一部変更する場合がある。
 - (2) 試合進行上、選手は常にテニスコート周辺に待機すること。試合開始時間は、開会式終了後指定する。
以後は前試合終了10分後とする。
さらに10分経過しても対戦チームが試合コートに入らない場合は棄権とみなす。
 - (3) 団体戦のオーダー票は2部作成し、1部は試合前に本部に提出、1部は挨拶の後に対戦相手に渡すこと。
 - (4) 試合を行うチームの監督・登録選手以外は試合コート内に入らないこと。
注)ここでの登録選手とは参加選手申込の際に提出した4人以上8人以下の選手を指す。
 - (5) 参加規程に違反、又は不都合な行為があった場合はそのチームの出場を停止・失格とする。
 - (6) ケガ等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。入らない場合は棄権とみなす。
 - (7) 試合終了後は、コート整備を行いゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (8) その他は、監督者会議申合せ事項による。
 - (9) 大会中は禁煙とする。

ソフトテニス競技(個人)実施要項



1. 試合方法
 - (1) 男女ともリーグ及びトーナメント方式で行う。
 - (2) 7ゲームマッチで行い、4ゲーム先取した方が勝ちとする。
 - (3) 試合は、3位決定戦を行う。
 - (4) その他、現行の日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブックに準ずる。
2. 審判
 - (1) 第1試合は本部が指名する。その後は敗者審判とする。
 - (2) 対戦終了後、勝者チームは対戦結果表を競技本部に持ってくること。
3. 参加規程
 - (1) 出場選手は選手登録をすること。登録以外者や他競技との二重登録者の出場を禁ずる。
出場した場合は、失格とする。
 - (2) 選手は日本ソフト連盟既定のユニフォームを着用し、背部にゼッケン(20cm×20cm)を付けること。
 - (3) **ゼッケンには、上から県名、学校名(略称可)、個人名(姓のみ可)を明記すること。**
 - (4) 選手はテニス競技用シューズを履くこと。
 - (5) ラケットはソフトテニス連盟公認のラケットを使用すること。
4. 試合球
 - (1) JSTA公認球(ケンコーボール)を使用し大会本部が用意する。
5. 注意事項
 - (1) 大会運営の都合等でルール・組合せ・日程中止を含め一部変更する場合がある。
 - (2) 試合進行上、選手は常にテニスコート周辺に待機すること。試合開始時間は、開会式終了後指定する。
以後は前試合終了10分後とする。
さらに10分経過しても対戦チームが試合コートに入らない場合は棄権とみなす。
 - (3) 試合を行うチームの監督・選手以外は試合コート内に入らないこと。
 - (4) 参加規程に違反、又は不都合な行為があった場合はそのペアの出場を停止・失格とする。
 - (5) ケガ等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。入らない場合は棄権とみなす。
 - (6) 試合終了後は、コート整備を行いゴミ等は各チームで責任をもって持ち帰ること。
 - (7) その他は、監督者会議申合せ事項による。
 - (8) 大会中は禁煙とする。

バドミントン競技(団体)実施要項



1. 試合方法
 - (1) 当該年度、日本バドミントン連盟競技規則に準ずる。
 - (2) 総あたりリーグ戦形式で実施する。
 - (3) 1チーム4～8名による複、複、単(2D1S)とする。
(同一選手が複、単に重複して出場できる。しかし複に重複して出場できない)
D2連勝した場合Sは行わない。
(3ゲーム1セット2ゲーム先取)
(単複共に1ゲーム15点、延長なし)
 - (4) 試合の進行状況によっては特別ルールを適用する。
 - (5) 冷房を入れているため、シャトルがコートにより少し流れる場合がある。
(極力風量を抑えている)
2. 審判
 - (1) 主審は競技委員長が別途委嘱する。(原則:社会人クラブチーム)
 - (2) 線審は各チームから1人選出。
 - (3) 補助員(得点板)は審判の依頼により速やかに出ること。
3. 参加規程
 - (1) 必ず体育館シューズを使用すること。
 - (2) 選手は原則スポーツ用のシャツを短パンまたはジャージに入れておくこと。
服装に関してはユニフォーム等の厳しい規程を設定しない代わりに、バドミントン競技を行うに相応しい服装を指導すること。(アロハシャツや派手な刺繍のシャツなどは不適當)
Tシャツは、季節、試合数及び経済面を考慮して可とする。
監督者はデザイン等競技を行うに相応しいものを指導すること。
 - (3) 選手は背面にゼッケン(20cm×20cm程度)をつけること。
ゼッケンは上段に県名、中段に学校名(略称可。グループ校の区別を明記)、下段に個人名(姓のみ可)を黒マジックで明記すること。
 - (4) 出場選手は登録選手であること。登録外者や二重登録者を起用した場合は、出場停止とする。
4. 試合球
 - (1) 団体戦で各校(1ダース/学校)より提出されたものを使用する。(男女別にそれぞれ必要)
 - (2) 団体戦に出場しない学校は(半ダース/学校)提出する。(男女別にそれぞれ必要)
 - (3) シャトルはヨネックス社製NEW OFFICIALとする。(シャトルは3番を推奨する)
5. 注意事項
 - (1) 各試合の開始は直前の試合終了後、速やかに行う。
5分経過しても選手が現れない場合は棄権とする。
 - (2) 競技場内は飲食禁止、禁煙とする。
 - (3) 応援席などの貴重品の管理を十分行うこと。
 - (4) 体育館のゴミ箱を使用せずに必ず持ち帰ること。
 - (5) 体育館周辺にても同様に吸殻、ゴミ等のポイ捨てをしない。
 - (6) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (7) ラケット等の道具は選手が持参すること。(本部での貸し出しは行わない)

バドミントン競技(個人)実施要項



1. 試合方法
 - (1) 当該年度、日本バドミントン連盟競技規則に準拠する。
 - (2) トーナメント形式で実施する。
 - (3) 男女共にシングルの個人戦とする。
1マッチ(1試合)は15点3ゲーム(2ゲーム先取)
延長はなし
 - (4) 試合の進行状況によっては特別ルールを適用する。
 - (5) 冷房を入れているため、シャトルがコートにより少し流れる場合がある。
(極力風量を抑えている)
2. 審判
 - (1) 主審は競技委員長が別途委嘱する。(原則:社会人クラブチーム)
 - (2) 線審は各チームから1人選出。
1回戦の線審は、お互いのチームから1人ずつ出し合うこと。
試合の勝敗にかかわらず、次の試合の線審につくこと。
準決勝の線審は、準々決勝の敗者が行うこと。決勝の主審・線審は本部より、3位決定戦は準決勝の敗者が線審を行うこと。
 - (3) 補助員(得点板)は審判の依頼により速やかに出ること。
3. 参加規程
 - (1) 必ず体育館シューズを使用すること。
 - (2) 選手はスポーツ用のシャツを短パンまたはジャージに入れておくこと。
服装に関してはユニフォーム等の厳しい規程を設定しない代わりに、バドミントン競技を行うに相応しい服装を指導すること。(アロハシャツや派手な刺繍のシャツなどは不適當)
Tシャツは、季節、試合数及び経済面を考慮して可とする。
監督者はデザイン等競技を行うに相応しいものを指導すること。
 - (3) 選手は背面にゼッケン(20cm×20cm程度)をつけること。
ゼッケンは上段に県名、中段に学校名(略称可。グループ校の区別を明記)、下段に個人名(姓のみ可)を黒マジックで明記すること。
 - (4) 出場選手は登録選手であること。登録外者や二重登録者を起用した場合は、出場停止とする。
4. 試合球
 - (1) 団体戦で各校(1ダース/学校)より提出されたものを使用する。(男女別にそれぞれ必要)
 - (2) 団体戦に出場しない学校は(半ダース/学校)提出する。(男女別にそれぞれ必要)
 - (3) シャトルはヨネックス社製NEW OFFICIALとする。(シャトルは3番を推奨する)
5. 注意事項
 - (1) 各試合の開始前は直前の試合の終了後、速やかに行う。
5分経過しても選手が現れない場合は棄権とする。
 - (2) 競技場内は飲食禁止、禁煙とする。
 - (3) 応援席などの貴重品の管理を十分行うこと。
 - (4) 体育館のゴミ箱を使用せずに必ず持ち帰ること。
 - (5) 体育館周辺にても同様に吸殻、ごみ等のポイ捨てをしない。
 - (6) けが等の治療のための救急箱は各チームで用意し、参加チームは事前に選手の傷害保険に加入しておくこと。
 - (7) ラケット等の道具は選手が持参すること。(本部での貸し出しは行わない)

ユニフォーム・ゼッケンについて

- ・ゼッケンは、黒マジックで記載してください。
 - ・ゼッケンは、ユニフォームへ縫い付けるか、四隅を安全ピンで留めてください。
- ※令和8年度大会より、卓球、硬式テニス、ソフトテニス、バドミントンのゼッケンの表記を統一します。

◆軟式野球

- ・スパイク、ユニフォーム(全日本軟式野球連盟規則に準ずる)を着用すること。
- ・同一チームは、同じユニフォームを着用すること。(揃わない場合は事前申告)

◆フットサル

- ・ユニフォームはチーム内同一が望ましいがビブスでも可。ただし、ソックスはチーム内で同色を着用すること。ゴールキーパーは必ず別色とする。
- ・シューズはフットサル用もしくはトレーニングシューズとし、すね当ての着用を義務付ける。

◆バレーボール

- ・統一されたユニフォームまたは運動服を着用し、胸と背にゼッケンを付けること。
- ・リベロプレーヤーは、リベロとはっきり分かるユニフォームまたはビブスを着用すること。
- ・競技用シューズまたは体育館シューズを履くこと。
- ・監督・コーチ・マネージャーは、左胸部に既定のマークを付けること。
- ・ゼッケンサイズ:横20cm×縦20cm ※胸と背に付ける



上段:学校名 ※長い校名は省略可
姉妹校がある時は区別する

下段:番 号 ※数字の幅は2cm以上の太字

キャプテンは、胸の番号の下にキャプテンマーク(2cm×8cm)
を付けること。

◆バスケットボール

- ・チーム内揃いのユニフォームもしくはビブスの濃淡2着(同一単色もしくは無地が望ましい)を用意し、背番号は0番から2桁の番号であれば認める。
- ・パンツの長さはひざ上までとする。

◆卓球

- ・ユニフォームまたは運動服を着用し、背部にゼッケンを付けること。
- ・白上下着用を禁止。どうしても取り入れたい場合は袖のみ可とする。
- ・競技用シューズまたは体育館用運動靴を履くこと。
- ・ゼッケンサイズ:横20cm×縦20cm ※背部に付ける



上段:県名

上段:学校名 ※長い校名は省略可
姉妹校がある時は区別する

下段:個人名(姓のみ可)

◆硬式テニス

- ・ユニフォームまたは運動服を着用し、背部にゼッケンを付けること。
- ・競技用シューズを履くこと。
- ・ゼッケンがない選手は出場できない。
- ・ゼッケンサイズ:横20cm×縦20cm ※背部に付ける



上段:県名

中段:学校名 ※長い校名は省略可
姉妹校がある時は区別する

下段:個人名(姓のみ可)

◆ソフトテニス

- ・日本ソフトテニス連盟既定のユニフォームを着用し、背部にゼッケンを付けること。
- ・テニス競技用シューズを履くこと。
- ・ゼッケンサイズ:横20cm×縦20cm ※背部に付ける



上段:県名

中段:学校名 ※長い校名は省略可
妹校がある時は区別する

下段:個人名(姓のみ可)

◆バドミントン

- ・服装はユニフォーム等の厳しい規程を設定しない代わりに、競技を行うに相応しい服装とする。
- ・Tシャツは、季節、試合数及び経済面を考慮して可とする。
- ・監督者はデザイン等競技を行うに相応しいものを指導すること。
- ・背部にゼッケンを付けること。
- ・ゼッケンサイズ:横20cm×縦20cm ※背部に付ける



上段:県名

中段:学校名 ※長い校名は省略可
妹校がある時は区別する

下段:個人名(姓のみ可)